(様式2)　**令和８年度　学校評価の４点セット整理票**　　**１学期版**

日田市立　北部中　学校　　令和 8 年 4 月 30 日

確認・検証・改善【　回目】　　月　日(　)実施

【学校の教育目標】	夢や目標に向かって、ともに学び、たくましく生きる生徒の育成
【育成を目指す資質・能力】	問題解決能力、人間関係構築力

（評価　4:100%以上　3:80%以上100%未満　2:60%以上80%未満　1:60%未満　※%は達成率）

重点目標	達成指標		重点的取組	取組指標	資質・能力との関連 知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等の涵養	担当	取組指標に対する 取組状況の確認 取組状況（エビデンス）	実施率	達成指標に対する 達成状況の確認 達成状況（エビデンス）	達成率	達成指標・取組指標の妥当性を 検証	評価 指標別	評価 全体	改善方法	学校関係者評価（　月　日） 考察	評価
基礎的・基本的知識・技能の定着	○「家庭学習の時間が長くなった」の4評価を50%以上 ※R7年度データなし ○「家庭学習に自主的に取り組むことができている」の4評価を50%以上 ※R7年度データなし	学校	○ 授業と家庭学習の連動	○ 家庭学習につながる授業の「振り返り」や「導入」を工夫し、家庭学習への意欲を高める。	○			知育部										
		学校	○ ＡＩドリル・問題データベースの効果的活用（計画的・継続的・客観的）の促進	○ 家庭学習にＡＩドリル・問題データベースを活用する。	○													
		家庭	○ 家庭学習への見守りの推進	○ 毎日の宿題やテスト勉強等、家庭学習に取り組んでいるかを確認する。	○													
		地域	○ 地域人材の効果的活用	○ 休道水曜塾（１・２年数学）を毎月２回実施する。	○													
問題解決能力の育成	○「タブレットを使って資料を整理したり、友達に伝えたりすることができた」の4評価を70%以上 ※R7年度3学期：73% ○「ペア学習やグループ学習で自分の考えを深めることができた」の4評価を50%以上 ※R7年度データなし	学校	○ 「自己存在感」を実感させ、「自己決定」をする場を設定する授業の工夫	○ すべての教科において、各単元に２回以上根拠を明確に持たせ、原則全員が説明する場面を設定した授業を行う。 一人一発言授業を展開する		○		知育部・体育部										
		学校	○ 協働的な学習の推進	○ 多様な学習形態による協働的学習を単元ごとに実施する。（ペア学習、班学習、同じ考え・異なる考えのグループ）		○												
		家庭	○ 主体的・計画的な家庭学習の充実	○ 毎週水曜日は、生徒自らが計画した家庭学習を設定する。 ※教員の事前確認、 保護者による事後確認		○												
		地域	○ 地域人材リストの活用	○ 学校運営協議会等と連携して、学期に１回以上ゲストティーチャーとして協力する。		○												
人間関係構築力の育成	○「挨拶をきちんとできた（家族、地域、先生、友達）」の4評価を60%以上 ※R7年度3学期：67% ○「周囲や地域のために自分の力が役立った（ミニボランティア）」の4評価を50%以上 ※R7年度データなし	学校	○ 生徒による自治活動の推進	○ 月１回程度、生徒集会や短学活での生徒による呼びかけの場を設定する。（挨拶やミニボランティア）			○	徳育部										
		学校	○ ミニボランティアの推進	○ 月１回程度、教員が学年集会や短学活で感謝や心をテーマに話をする。			○											
		家庭	○ 親子会話の推進	○ 保護者は、家庭での子どもの様子に気を配り、気になるときは声かけをする。			○											
		地域	○ 地域へのボランティア活動の充実（地域の方々とのつながりづくり）	○ 北中ボランティアを毎月1回実施する。 育友会と連携した地域貢献プロジェクトを各地区１回以上実施する。			○											
【働き方改革の推進】	○「学年担任制による、授業時数や学活、給食指導の負担シェアすることができた。」の肯定評価を80%以上 ※R7年度3学期：100% ○「学年部及び担任は効果・効率的な働き方に努めることができた。」の肯定評価を70%以上 ※R7年度3学期：72%	学校等	○ 教職員の業務負担の平準化	○ 学年担任制による、授業時数や学活、給食指導の負担シェア				教頭										
		学校等	○ ＩＣＴ機器を効果的に活用した事務処理の推進	○ 各学期育友会の出欠状況や保護者アンケート等のＷｅｂ回答及び集計の実施				教頭										